

■受験歴…1次3回、2次3回、計5年です。

2015 (平成27年) 1次5科目合格 (414点)、法務・システムが残る。独学。

2016 (平成28年) 2次中心に勉強しつつ、1次は法務・システムのみ受験し、まさかの敗退。どちらもあと1マーク、やり場のない悔しさを覚える。大手予備校・通学。

2017 (平成29年) 法務、システムに運営、中小を加えた4科目受験で1次合格。  
2次不合格 (DACBのB)。大手予備校・通学。

2018 (平成30年) 2次に専念するも不合格 (ABABのB)。大手予備校・通学。

2019 (令和元年) 1次再受験し合格 (478点)。2次筆記合格。

7月まで大手予備校の1次単科、8月からMMC通学。

■何を書けば受かる試験か

・2017 (平成29年) 2次1回目…

1次4科目を仕上げつつ、大手予備校の2次講義を受けていたが、過去問が苦手だった。予備校答練に比べ、過去問は無骨でわかりにくいと感じ、無意識のうちに真剣に向かい合うのを避けていた。結果、事例1はD評価で落胆。何を書けば良い試験なのか分かっておらず、「真剣に与件と設問を読み込んだ後、その場で考え始め、分からない問題はわからないまま時間浪費」で終わっていた。

・2018 (平成30年) 2次2回目…

年末から2月末まで、事例4対策で日商簿記2級に専念し合格。3月からは、点数の悪かった事例1・事例3の平成13年以降の過去問を全て解く。また合格答案を、ふぞろいやネットで探してひたすら読み込む。大量に過去問・合格答案に接するうち「2次試験は、違うようで毎年同じことが問われている」と言われる所以が分かってきた。ネットで読んだMMCメソッドの「事前に回答の半分を持っていく」の真意もわかってきて共感でき、次はMMCに入りたいと思った。本番では、前年点数の良かった事例2の油断・事例4のポカミスで不合格にはなったが、「2次試験の正体見えたり」の感覚があった。「決して何を書いたら良いか分からない試験ではない。書くべきことはすべて事前に決まっている。当日は、そこから引き出すだけ」。

・2019 (令和元年) 2次3回目…

8月まで1次7科目の準備。5年前の初年度は、あれほど苦勞した7科目受験が、今では多くが長期記憶に入っており、さほど苦も無く合格。8月からはMMC通学に入ると決めており、1次受験後すぐに申込み、運よく入学できた。事例1～3のキーワード&金型は期待以上に整理されており、更に事例4の答練が素晴らしいと思った。最近の本試験のCVPの厭らしさをあそこまで再現した答練は他にない。受けた直前答練の3回とも、経営分析の

安全性は当座比率が正解だったが、本試験でも当座比率が的中。すごいと思った。

■結論

長引かせたくないなら、MMC に入ることをお勧めします。「何を書いたら受かるか」の全てがあります。

以上